

第四節 伊犁鐵道問題

新疆は、實に清國に於ける西邊の門戸たり。既に門戸たる以上は、其の鎖鑰を嚴にせざるべからず、而して現今に於ける新疆の門戸は、鎖鑰果して嚴重なりや。

看よ、其人口は稀薄にして一平方哩に僅々三人半弱のみ。其兵備は約五六千人を以て、尨大なる區域を守衛するのみ。是れ果して他人の覬覦を許さざる底に鎖鑰嚴なりと爲し得べきか。

是に於てか、清國爲政者が、新疆に施設すべき緊急問題は甚だ多く、移民の奨励、開拓の實施、軍隊の改善、國防の完成、鑛山の發掘、植林の着手、土木水利の施工、道路橋梁の改修等、一として等閑に附すべからざるも、就中最大急務たるものは、鐵道の敷設なりとす。

鐵道敷設は、何が故に斯く緊急なるか、曰く新疆省は戈壁帶を除けば、決して從來世人が想像せる如き不毛の地たらざるのみならず、伊犁附近の如きは、中央亞細亞無雙の豊饒地なりとす。